

やっば原村!

Vol.19

八ヶ岳雪合戦大会

プレイベント開催を数に入れ今年が3回目になるこの雪合戦は、先月号の記事同様、原村にある八ヶ岳自然文化園の特設コートにて行われる。毎年、雪玉も融けるような白熱した試合が多数のチームで行われているが今年も多くのチームに参加して欲しいと参加チームを募集している。

開催日：平成24年2月5日（日曜日）

参加資格：小学校高学年以上
競技ルール：日本雪合戦連名規則による

チーム編成：監督1名、選手7名、補欠2名

表彰：上位3チーム
参加費：1チーム1万円
募集チーム：20チーム

申込期限：2月2日（木曜日）

申込方法：<http://yuki-gasse.nyatsugatake-ncp.com>

または事務局
TEL 0266742681
FAX 0266742395

連絡。主催は、長野県雪合戦協会諏訪支部。
さて、申込期限がすぐに来ることから告知の詳細を先に連ねたが、どうだろうか。雪合戦をスポーツとして大会が開催されていることを知らなかった方もいるのではないだろうか？

左記の詳細の中にチーム編成という項目があったが、その内訳もちゃんと決まっている。実にチーム編成が大切なのだそうだ。
チームは監督1名、フォ

ワード4名、バックス3名の7名で、それぞれの役割や活動範囲が決まっている。また2名までの補欠がみとめられている。競技開始時点で7名の競技者が確保されていることがチーム成立の条件となっているのだ。

肝心の競技方法はと言うと、2チーム対抗で行い、勝敗の決定はポイント制。決められた数の雪球を使用し、相手チームのチームフラッグを抜き取ることでポイントが決まる。1試合3セットマッチとし2セット先取したチーム、または3セット終了して合計ポイントの多い方が勝利チームとなるようだ。

「大人のチームが目立っているが、これからは子供のチームも増えていったらいいなあ」と事務局からの声も。是非、冬ならではのスポーツを体験してほしい。

やっば原村

今回は久しぶりにイベント紹介ではなく、原村に魅了された気賀澤さんのご紹介。



気賀澤さんは、駒ヶ根へ出て現在松本在住。以前から田舎暮らしをしたいと思っており2、3年前から適

した土地を探していた。



（写真は、原村にある田舎暮らし情報館主催の「餅つき体験会」）

なぜ、田舎暮らしをしたいと思うようになったのですか？と尋ねると、アメリカのテキサス州に1年間暮らしていたことがあり、そのの広々とした、のんびりとした雰

囲気が良いなあと感じたからだという。原村とアメリカとは随分違うけど同じ田舎であると言う事と広々とした八ヶ岳のロケーションが気に入った事でこの周辺を探していた。それも自分の足で歩き回りながら探していたように、歩いている中で一軒の木工教室を見つけ訪ね入った。以前から、いつか趣味の木工で椅子や机を作ってみたいと思っていたのでその出逢いは偶然ではなく『縁』を感じ原村に絞って探し始めると、インフラの良さ、行政の対応の良さなどあらゆるため原村の住みやすさをイメージできたようだ。また、たまたま飛び込んだ不動産会社の会長とこれまた縁が繋がって紹介され気に入った土地は、なんと五千年前から人が住んでいた場所

だった。そう縄文人の住居跡が三つも出てきたのだ。現在のレベルから1mほど掘っただけで住居跡、土器、石器がかなり綺麗な状態で幾つも発掘され調査の様子を自身でも何度か見学。見る度に太古のロマンを感じ、そこに現代の自分が生活できることを素晴らしいと感じている。と、同時にこの土地には、何千年も前から災害がない暮らしやすいところだったのではないかと思えたという。南北のアルプスの眺望も良く、北は小高い丘になり雑木林が広がる。



南には自然のままの川も流れていて田舎暮らしの風情には申し分ない。そのうえこの土地には、上下水道があるだけではなく原村役場や保育園、小学校まで1km弱と生活にも不便さは全く感じられない。この土地に出逢えた事を縁と言わずしてなんと云えよう。いにしえの香につつまれながら気賀澤さんの田舎暮らしは、今ゆつくりと動き出したのだ。
さて、土地が決まれば次は

建物。地元の建設会社『宮坂建設』の建物見学会に参加し、寒冷地住宅について基礎・構造・完成と見学し今後の参考にしている。



建物：宮坂建設施工

この見学会では、段階をおって建物の勉強が出来ることや寒冷地住宅の住宅設備についても詳しく説明してくれる。そして何よりも心強いのは、実際にこの会社で家を見て暮らしている人の家を見る事は勿論、原村暮らしや建物の住み心地を暮らしているご本人から直接話を聞ける事。原村での冬の暮らしに些かの不安はあったようだが、今回は原村暮らし先輩の話聞いて安心してできたのではないだろうか。

